

献呈の辞

俵静夫先生と国歳胤臣先生は、昭和六一年三月に本学を定年退職されました。両先生はともに本学法学部の創設期に教授として就任され永年にわたって法学部発展の支柱として尽力されました。両先生に対して深い敬意と感謝の念を表すために、私たちは両先生の退職記念論文集を編み、捧呈することにいたしました。

俵静夫先生は、明治三八年一〇月三日にお生れになり、京都大学法学部をご卒業後、昭和四四年三月に定年退職されるまでの間、神戸大学法学部教授として、憲法・行政法の研究・教育に従事されました。神戸大学法学部に在職中、俵先生は法学部長、評議員などの要職を歴任されました。先生は神戸大学を退職されたのち直ちに本学法学部教授に就任され、以来一七年間にわたって本学部発展のために尽力されました。先生の永長にわたる憲法・行政法の研究・教育の功勞に対して、昭和五〇年に勲二等瑞宝章が授与されました。

国歳胤臣先生は、明治三九年一二月一七日にお生れになり、東京大学法学部、同経済学部をご卒業後、京都大学法学部大学院に進まれ、昭和四五年三月に定年退職されるまでの間、神戸大学法学部教授として、商法の研究・教育に従事されました。国歳先生は、神戸大学在職中に、評議員、法学部長、学長事務取扱などの要職を歴任されました。先生は、神戸大学を退職されたあと直ちに本学法学部教授に就任され、本学部でも法学部長を歴任されるなど一六年間にわたって学部発展に尽力されました。先生の永年にわたる商法の研究・教育に対して、昭和五二年に

勲三等旭日中綬章が授与されました。

両先生は、本学部創設期に就任され、両先生とほぼ同年代の西原寛一先生、石本雅男先生、大隅健一郎先生、尾上正男先生らとともに、本学部の生みの親であり、育ての親であります。それぞれの学界の重鎮であられる先生方が、ケーキを食べながら、高い見識と深い洞察力に基づいて、なごやかに議論されていたありし日の教授会が想い出されます。先生方の高邁な学問とお人柄の中で自然に育ってきたわが学部の気風、すなわち、なごやかでアカデミックかつリベラルな法学部という気風を、私たちは大切に受け継ぎ、さらに活気あふれる学部にて育てる覚悟でございます。

俵、国歳両先生がますますご壮健であられますことをお祈りいたしますとともに、いつまでも後進の私たちをご指導下さいますようお願い申し上げます。

昭和六二年一〇月

法学部長

田邊光政